

平成25年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年2月13日

上場取引所 東

上場会社名 明治ホールディングス株式会社
 コード番号 2269 URL <http://www.meiji.com>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 浅野 茂太郎

問合せ先責任者 (役職名) IR広報部長 (氏名) 梅本 隆司

TEL 03-3273-3917

四半期報告書提出予定日 平成25年2月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年3月期第3四半期の連結業績(平成24年4月1日～平成24年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第3四半期	853,065	1.8	22,911	10.5	25,179	15.3	11,659	15.8
24年3月期第3四半期	838,290	△1.3	20,728	△38.1	21,833	△36.3	10,069	△43.6

(注) 包括利益 25年3月期第3四半期 14,495百万円 (65.9%) 24年3月期第3四半期 8,737百万円 (△37.0%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第3四半期	158.28	—
24年3月期第3四半期	136.69	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年3月期第3四半期	776,336	307,198	38.7
24年3月期	749,985	298,491	38.9

(参考) 自己資本 25年3月期第3四半期 300,079百万円 24年3月期 291,589百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	40.00	—	40.00	80.00
25年3月期	—	40.00	—	—	—
25年3月期(予想)	—	—	—	40.00	80.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年3月期の連結業績予想(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,125,000	1.4	24,000	18.9	24,000	9.7	11,800	73.4	160.19

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

詳細は、[添付資料]5ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 (2)四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

25年3月期3Q	76,341,700 株	24年3月期	76,341,700 株
② 期末自己株式数	2,678,448 株	24年3月期	2,675,306 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	73,664,867 株	24年3月期3Q	73,668,637 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通しなどの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績などはさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提条件その他の関連する事項については、[添付資料]4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

(四半期決算補足説明資料の入手方法について)

四半期決算補足説明資料は決算短信に添付しTDnetで開示しております。また、当社ホームページにも同日掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	4
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	9
(3) 継続企業の前提に関する注記	10
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10
(5) セグメント情報等	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益 (円 銭)
当第3四半期 連結累計期間	853,065	22,911	25,179	11,659	158.28
前第3四半期 連結累計期間	838,290	20,728	21,833	10,069	136.69
対前年同期 増減率(%)	1.8	10.5	15.3	15.8	—

当第3四半期連結累計期間のわが国経済は、東日本大震災からの復興需要などが見られるものの、欧州債務危機や中国経済の成長率鈍化、長引くデフレの影響などにより、依然として先行き不透明な状況で推移しました。

こうした環境下、当社グループは2012-2014グループ中期経営計画「TAKE OFF 14」に基づき、各事業とも積極的に取り組みを進めています。食品セグメントにおいては好調な乳製品事業が全体を牽引、また医薬品セグメントでは薬価改定の影響を補うべく、主に国内の医療用医薬品の学術普及活動強化に努めております。

この結果、当期売上高は8,530億65百万円（前年同期比1.8%増）、営業利益は229億11百万円（同10.5%増）、経常利益は251億79百万円（同15.3%増）、四半期純利益は116億59百万円（同15.8%増）となりました。

セグメント別の概況は次のとおりです。

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額	連結 損益計算書 計上額
	食品	医薬品	計		
売上高	761,793	93,118	854,911	△1,845	853,065
営業利益	15,460	7,430	22,890	20	22,911

①食品セグメント（株式会社 明治の事業に相当）

	前連結会計年度 (百万円)	当連結会計年度 (百万円)	対前期 増減率(%)
売上高	747,198	761,793	2.0
営業利益	10,484	15,460	47.5

売上高は、乳製品事業で市乳を中心に好調が持続したこと、菓子事業が前年同期並みを確保したことにより、健康栄養事業などの売上減を補い、前年同期を上回りました。

営業利益は、主に乳製品事業の増収およびプロダクトミックスの改善により、前年同期を大幅に上回りました。

事業別の売上概況は次のとおりです。

■ 乳製品事業（【市乳】牛乳類、ヨーグルト、飲料等 【乳食品】チーズ、バター、業務用乳製品等）

市乳はヨーグルトの売上増により、また乳食品は主力商品群の堅調な推移などにより、全体では前年同期を上回りました。

【市乳】

- ・ヨーグルトは、健康志向の高まりの中、積極的な販促活動によって「明治ヨーグルト R-1」「明治プロビオヨーグルト LG21」や、「明治ブルガリアヨーグルト」などの売上が拡大を続け、前年同期を大幅に上回りました。
- ・牛乳類は、「明治おいしい牛乳」の店頭マーケティングや発売10周年消費者キャンペーンなどの施策が奏功し、前年同期を上回りました。

【乳食品】

- ・市販用ナチュラルチーズは、主力の「明治北海道十勝カマンベールチーズ」などが順調に売上を伸ばし、チーズ全体では前年同期を上回りました。
- ・市販用マーガリン類は、「明治ヘルシーソフト オフスタイル」シリーズのラインアップ充実などにより引き続き好調に推移し、前年同期を上回りました。
- ・業務用生クリームは、積極的な販促活動により主力の「明治フレッシュクリーム あじわい」などが好調に推移し、前年同期を上回りました。

■ 菓子事業（【菓子】チョコレート、ガム、キャンデー、輸入菓子等 【デザート】アイスクリーム、スイーツ等 【フードクリエイト】業務用（製菓・食材）等）

菓子事業は、菓子は前年同期に届かなかったものの、デザート、フードクリエイトは順調に売上を伸ばし、全体では前年同期並みを確保しました。

【菓子】

- ・チョコレートは、「メルティーキッス」や発売50周年キャンペーンが奏功した「アーモンドチョコ」などのナッツチョコレート群は順調に推移しましたが、残暑の影響もあり前年同期をわずかに下回りました。
- ・ガムは市場が低迷する中、前年同期を下回りましたが、グミは好調に推移しました。

【デザート】

- ・アイスクリームは、主力の「明治エッセルスーパーカップ」が順調に売上を伸ばし、明治チョコアイスシリーズも好調に推移しました。また、昨年11月に「明治ザ・プレミアム グラン」の販売を再開しました。

【フードクリエイト】

- ・フードクリエイトは、顧客ニーズにきめ細かく応える商材提供を強化し主力商品群が伸長、製菓・食材とも前年同期を上回りました。

■ 健康栄養事業（【健康】スポーツ栄養、健康機能、食品、OTC等 【栄養】粉ミルク、流動食、病態食等）

健康は市場の低迷や競争激化を受け前年同期を下回り、栄養は流動食の好調により前年同期を上回ったものの、全体では前年同期を下回りました。

【健康】

- ・スポーツプロテイン「ザバス」は、ランナー、ジュニアへの普及、販促によるユーザーの増加などにより順調に拡大し前年同期を上回りましたが、基礎美容食品の「アミノコラーゲン」は苦戦し、前年同期を下回りました。

【栄養】

- ・流動食は、新規採用先の増加や新商品の寄与により、前年同期を上回りました。
- ・粉ミルクは前年同期を下回りましたが、昨年9月に「明治ほほえみ」「明治ステップ」の栄養成分をリニューアルし、積極的な普及活動を行っております。

②医薬品セグメント（Meiji Seika ファルマ株式会社の事業に相当）

	前連結会計年度 （百万円）	当連結会計年度 （百万円）	対前期 増減率（%）
売上高	92,883	93,118	0.3
営業利益	9,748	7,430	△23.8

売上高は、国内の医療用医薬品については、昨年4月の薬価改定の厳しい影響がある中、抗うつ薬、ジェネリック医薬品の伸長などにより、前年同期を上回りました。海外の医療用医薬品、生物産業事業は苦戦となりましたが、セグメント全体では前年同期をやや上回りました。

営業利益は、主に薬価改定の影響により前年同期を下回りました。

事業別の売上概況は次のとおりです。

■ 医療用医薬品事業

- ・抗菌薬では、「メイアクト」は薬価改定の影響などにより前年同期を下回りましたが、「オラペネム」は前年同期を上回りました。
- ・抗うつ薬では、「デプロメール」は前年同期を下回りましたが、「リフレックス」は積極的な学術普及活動などにより前年同期を上回りました。
- ・ジェネリック医薬品では、カルシウム拮抗薬「アムロジピン錠 明治」が前年同期を上回ったのに加え、アルツハイマー型認知症治療剤「ドネペジル 明治」や、昨年6月に発売した抗うつ薬「パロキセチン 明治」などが好調に推移しました。さらに、昨年12月発売の品目も売上に寄与した結果、前年同期を上回りました。

■ 生物産業事業（農薬・動物薬）

- ・農薬は、いもち病防除剤「オリゼメート」および茎葉処理除草剤「ザクサ液剤」の売上減が響き、前年同期を下回りました。
- ・動物薬は、主力の家畜用薬が前年同期を下回り、全体として前年同期を下回りました。

（2）連結財政状態に関する定性的情報

- ・当期末の資産、負債、純資産の状況

〔資産〕

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は7,763億36百万円と前連結会計年度末に比べて263億50百万円増加しました。これは受取手形及び売掛金が151億74百万円、商品及び製品が44億59百万円、原材料及び貯蔵品が33億14百万円増加したことなどによるものです。

〔負債〕

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は4,691億37百万円と前連結会計年度末に比べて176億43百万円増加しました。これは1年内償還予定の社債を400億円償還したこと、短期借入金が77億8百万円、コマーシャル・ペーパーが50億円減少した一方、社債を500億円発行したこと、支払手形及び買掛金が79億78百万円、長期借入金が73億77百万円増加したことなどによるものです。

〔純資産〕

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は3,071億98百万円と前連結会計年度に比べて87億7百万円増加しました。これは利益剰余金が59億55百万円、その他有価証券評価差額金が17億72百万円増加したことなどによるものです。

なお、自己資本比率は38.7%（前連結会計年度末は38.9%）となりました。

（3）連結業績予想に関する定性的情報

平成24年5月14日の「平成24年3月期決算短信」で公表いたしました連結業績予想数値に変更はありません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	14,662	16,059
受取手形及び売掛金	168,699	183,874
商品及び製品	77,292	81,752
仕掛品	2,240	2,672
原材料及び貯蔵品	32,480	35,795
その他	27,438	28,910
貸倒引当金	△282	△276
流動資産合計	322,531	348,788
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	270,604	273,694
減価償却累計額	△149,088	△152,232
建物及び構築物（純額）	121,515	121,461
機械装置及び運搬具	423,885	431,747
減価償却累計額	△322,356	△330,927
機械装置及び運搬具（純額）	101,528	100,819
工具、器具及び備品	56,671	56,378
減価償却累計額	△47,235	△47,135
工具、器具及び備品（純額）	9,435	9,242
土地	65,255	64,084
リース資産	7,041	7,519
減価償却累計額	△2,559	△3,283
リース資産（純額）	4,482	4,235
建設仮勘定	8,966	7,277
有形固定資産合計	311,184	307,120
無形固定資産		
のれん	270	178
その他	7,770	7,318
無形固定資産合計	8,040	7,497
投資その他の資産		
投資有価証券	42,212	44,013
その他	66,484	69,371
貸倒引当金	△469	△455
投資その他の資産合計	108,228	112,930
固定資産合計	427,453	427,548
資産合計	749,985	776,336

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	109,136	117,114
短期借入金	61,860	54,151
1年内償還予定の社債	40,000	—
コマーシャル・ペーパー	47,000	42,000
未払法人税等	2,888	7,945
賞与引当金	9,286	4,637
返品調整引当金	212	192
売上割戻引当金	5,772	5,132
その他	76,342	78,691
流動負債合計	352,500	309,865
固定負債		
社債	50,000	100,000
長期借入金	6,401	13,779
退職給付引当金	18,590	21,050
役員退職慰労引当金	417	301
その他	23,584	24,141
固定負債合計	98,994	159,271
負債合計	451,494	469,137
純資産の部		
株主資本		
資本金	30,000	30,000
資本剰余金	98,852	98,851
利益剰余金	174,494	180,449
自己株式	△9,268	△9,279
株主資本合計	294,078	300,021
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,127	6,900
繰延ヘッジ損益	△2,303	△1,241
為替換算調整勘定	△5,313	△5,601
その他の包括利益累計額合計	△2,488	57
少数株主持分	6,901	7,119
純資産合計	298,491	307,198
負債純資産合計	749,985	776,336

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
売上高	838,290	853,065
売上原価	559,298	563,621
売上総利益	278,991	289,443
販売費及び一般管理費	258,263	266,532
営業利益	20,728	22,911
営業外収益		
受取利息	39	31
受取配当金	826	829
不動産賃貸料	1,981	1,732
受取補償金	1,500	1,500
為替差益	—	173
持分法による投資利益	198	155
その他	858	1,391
営業外収益合計	5,405	5,814
営業外費用		
支払利息	1,500	1,226
為替差損	649	—
不動産賃貸原価	1,397	1,366
その他	752	954
営業外費用合計	4,300	3,546
経常利益	21,833	25,179
特別利益		
固定資産売却益	351	1,652
その他	52	191
特別利益合計	404	1,843
特別損失		
固定資産廃棄損	978	1,386
災害による損失	1,695	—
固定資産売却損	4	812
投資有価証券評価損	178	866
関係会社出資金評価損	—	1,038
事業再編費用	1,475	—
その他	227	838
特別損失合計	4,560	4,942
税金等調整前四半期純利益	17,678	22,081
法人税等	7,360	10,122
少数株主損益調整前四半期純利益	10,317	11,958
少数株主利益	248	298
四半期純利益	10,069	11,659

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	10,317	11,958
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△397	1,789
繰延ヘッジ損益	△292	1,061
為替換算調整勘定	△892	△325
持分法適用会社に対する持分相当額	2	12
その他の包括利益合計	△1,580	2,537
四半期包括利益	8,737	14,495
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	8,548	14,205
少数株主に係る四半期包括利益	189	290

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	食品	医薬品			
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	746,257	92,032	838,290	—	838,290
(2) セグメント間の 内部売上高又は振替高	940	851	1,791	△1,791	—
計	747,198	92,883	840,081	△1,791	838,290
セグメント利益	10,484	9,748	20,232	495	20,728

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益の調整額495百万円には、セグメント間取引消去67百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用428百万円が含まれております。全社費用は当社(持株会社)運営に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

固定資産に係る重要な減損損失はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

のれんの金額の重要な変動はありません。

(重要な負ののれん発生益)

重要な負ののれんの発生はありません。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自平成24年4月1日 至平成24年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント		合計	調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	食品	医薬品			
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	760,848	92,217	853,065	—	853,065
(2) セグメント間の 内部売上高又は振替高	945	900	1,845	△1,845	—
計	761,793	93,118	854,911	△1,845	853,065
セグメント利益	15,460	7,430	22,890	20	22,911

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益の調整額20百万円には、セグメント間取引消去116百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△95百万円が含まれております。全社費用は当社（持株会社）運営に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

固定資産に係る重要な減損損失はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

のれんの金額の重要な変動はありません。

(重要な負ののれん発生益)

重要な負ののれんの発生はありません。